

- \* 作品タイトル 浮かびあがるもの 1  
\* 技法 リトグラフ  
\* 画面サイズ 22 × 31 cm

#### \* 作品コメント

日常目にする何気ない風景の中に点在するものを自分なりにみつめ、自由に構成し、色彩豊かな作品を目ざし、制作しています。日頃、こどもたちと一緒に山道を歩く機会が多く、その中で発見する形だったり、色だったり、自然やこどもからうける生命力だったり。それらのものに影響され、作品をつくっています。この作品の前に、「浮かびあがるもの」というタイトルの作品があります。その連作になります。

紙はたとう紙（着物の包装紙などに使われる和紙）を使用しています。和紙の風合いと色彩、線がからみあってできるやわらかさを感じてもらえたら幸いです。

#### \* 作品タイトルについて

タイトルをつけるのは、作品ができてからつけます。最初におおまかなイメージを持って作品をつくりますが、そのイメージをタイトルにおきかえるのは、いつも悩むところです。あまり、英語のタイトルはつけず、日本語で自分にとってリアリティがある言葉を選ぶことが多いです。

**\* 小さなころ気になってたこと、執着していたこと、育った環境とか、今作品に現れてるな～繋がっているな～ってこと。**

小さいころは、おばあちゃんちの2階から見える向かいの山から1本だけぼこっと出ている大きな木が、ずっと気になっていました。小さいころ、よく熱を出して学校を休むことが多く、その時に布団からみえる掛け軸や戸棚にほられている風景画、さんや天井の木目などから物語をよく考えていました。消しゴム、切手、シール、貝、映画のチラシなど集めていましたが、それらの共通点として、色合いに反応していたように思います。実家の庭がひろかったので、よく木にのぼって遠くをみたり、虫をつかまえたり、猫と遊んだりしていました。とにかくよく絵を描いていました。小さいころ通っていた絵の先生のうちで嗅ぐ絵の具の匂いやパレットを洗うとき、白い陶器の洗い場にながれていく絵具の色を見るのが好きでした。あらためて、今も自然の中でみつけるものや色彩に反応しているのかな～繋がっているな～と思いました。

1973 神奈川県生まれ 1997 女子美術大学洋画専攻卒業 1999 東京芸術大学大学院版画専攻修了

**個展** 養清堂画廊（1998、'02、'05、'08、'10、'13）

#### 主な展示、受賞

1997 卒業制作賞（女子美） 1999 買い上げ賞（東京芸大卒業・修了制作展）

1997～'99、'01～'13 日本版画協会展（'97 山口源新人賞、'08 G賞、会員推挙）

2001 ふくみつ棟方記念版画大賞展（部門賞受賞）、第37回神奈川県美術展（美術奨学会賞受賞）  
神奈川国際版画トリエンナーレ展

2002 第5回高知国際版画トリエンナーレ展 2003 女子美術大学研究奨励賞受賞

2005～'07 SPA 国際版画交流展 日本巡回展、カナダ巡回展、オランダ巡回展

2010「版画展」 星と森の詩美術館 2013 ベストセレクション美術 2013 東京都美術館

#### パブリックコレクション

町田国際版画美術館、女子美術大学資料館、図書館情報大学、沼津市など

ホームページ <http://motoko-tsuji.jimdo.com>

フェイスブック <https://www.facebook.com/motoko.morioka.3>